

多まなび

東京多摩学習センターだより第29号 2024年1月発行



〒187-0045 東京都小平市学園西町1-29-1

☎ : 042-349-3467

e-mail : tama-sc@ouj.ac.jp

<https://www.sc.ouj.ac.jp/center/tama/> →



Contents



■ 新たな学びに歩み出ませんか	センター所長 尾崎 正峰	2p
■ 「学べば学ぶほど…」	客員教授 太田 陽子	3p
■ 「みずから考えること」	客員教授 坂上 康博	4p
■ 宗教と「宗教の問い」	客員教授 深澤 英隆	5p
■ 歯医者さんが患者さんの自宅や施設に診療に行く訪問診療	客員教授 深山 治久	6p
■ 「啓蒙」という言葉をめぐって	客員教授 森村 敏己	7p
■ 令和5年度の東京多摩学習センター 入学者の集い／学位記授与式／単位認定試験操作体験会／面接授業／公開講演会		8、9p
■ 学びの窓口／多摩ゼミ		10p
■ 同窓会／サークルのご紹介		11p
■ 2024年度第1学期科目登録について		12p



新たな学びに歩み出ませんか



東京多摩学習センター所長
尾崎 正峰(おざき まさたか)

地球温暖化の問題が大きく取り沙汰され、昨年夏の異常な猛暑もあって、「日本は“四季”から“二季”になってしまったのか」とまで言われる今日この頃です。とはいえ、私たち東京多摩学習センターを取り囲む木々を見ていますと、緑あざやかな彩りを見せ始める春、照りつけるまぶしい太陽の光が木洩れ日として降り注ぐ夏、木々がそれぞれに色づく紅葉の秋、葉が落ちた枝が凍てつく風に揺れる冬、というように季節の移り変わりを私たちに伝えてくれます。

私たちの学習センターが入っている建物がある地は、1990年代末まで一橋大学の教養課程、つまり、学部1,2年生のための授業が開講されていたキャンパスでした（私自身、入学後の2年間を過ごした懐かしい場所でもあります）。現在は一橋大学の授業は行われていませんが、当時の面影を残す学生寮があり、グラウンドや体育館での課外活動にいそしむ若い学生とすれ違うこともしばしばです。

こうしたことから、当センターを訪れた方には「大学らしい雰囲気」を醸し出していると感じていただけるのではないかと自負しています。

テレビドラマ『3年B組金八先生』の主題歌ではありませんが、この冊子を手にされた方々に「贈る言葉」を二つほど。

ひとつは、「一年の計は元旦にあり」。もうひとつは、「思い立ったが吉日」。

最初のものが「物事は何事によらず最初が肝心。しっかりと計画を立てることが大事」とする格言。二つ目が「何かを始めようと思ったとき、すぐに実行に移した方が良い」ということわざ。ちょっと矛盾するところもありますが、人々の学びにとっての金言と言えらと思います。

すでに放送大学に在籍されている方々は、学ぶことへの強い意欲を持たれて日々の学習に励んでいらっしゃることでしょう。その上で、新しい年を迎え、「今度はこの面接授業を取ろう」「卒業研究に取り組もう」「今のコースを卒業したら別のコースへ」などなど、新たなチャレンジの計画を心に秘めていらっしゃる方も多いのではないのでしょうか。その際、二つ目のことわざの含意を汲んで、あまり難しく考えすぎることなく、いい意味での「勢い」と「遊び心（余裕）」を持つことも大事なように思います。

一方、「放送大学は“放送”の授業だけじゃないの?」「学習センターって、どんなところ?」という方々は、この後に掲載されている、客員教授の論考、当センターで開講している面接授業の風景、サークル活動の紹介、等々にぜひ目を通してみてください。何かしらに少しでも興味を持たれたならば、当センターをのぞいて

みてください（なお、月曜日と祝日等は閉館です）。センターの雰囲気を直に感じられて、また「面接授業って面白そう」などと思われたならば、そこは「元旦」に限ることなく、「思い立ったが吉日」路線で「ひとつ試してみるか」くらいのフットワークの軽さをもって行動に移していただければと思います。

ひとり一人の学びへのもろもろの思いを受け止めることができるのが放送大学の特徴です。

新たな学ぶことに歩み出ようという思いが、放送大学とつながっていくことを願っています。



学べば学ぶほど…

客員教授 太田 陽子

(専門：日本語学・日本語教育学)

放送大学で授業を担当して2年になりました。私の専門は、留学生に対する日本語教育なので、留学生が日本語のどんなところを不思議に思うのかということを中心に、面接授業や多摩ゼミで「日本語」についていっしょに考えてきました。授業ではいつも、身近な小さなことばから日本語を見直すことを目的としています。クラスで印象深かったトピックを3つほど紹介します。

Q1：新聞・信号・進展…今、「ん」って何回言ったか？



これは、音声の授業で私が出したクイズです。みなさんは、何回と答えますか？普通に考えれば、「しんぶん・しんごう・しんてん」で5回ですが…正解は（そのときは）2回でした。実は、「しんぶん」の1つ目と2つ目の「ん」は音声学では違う音です。同様に「しんごう」の「ん」、「しんてん」の1つ目の「ん」もまた違う音です。でも、「しんぶん」と「しんてん」の最後の「ん」は同じ音です。つまり、日本語の「ん」には、4種類の音があるのです。「うそだ～」と思った方は、それぞれの「ん」のところで発話を止めて、口の形を見てみてください。私はこの最後の「ん」の音で、「ん」って何回言ったか？」と聞いたので、答えは2回なのでした。全然違う音が1つの「ん」として聞こえるのは、我々が日本語の耳を持っているからです。

Q2：留学生の日本語上級クラスで時事ニュースを読んでいます。質問が出た文字はどれ？

①内閣不信任案

②W 杯

③物価高騰

留学生も上級になると、母語話者と遜色のない日本語力を身につけて行きます。政治や経済について、日本語で流暢に語ることもできます。そんな高レベルの留学生から「これって何ですか？」と聞かれたのは、意外にも「W 杯」でした。そう「ワールドカップ」です。留学生には、なぜ「カップ」は「杯」なのか、そこを漢字にするなら「世界杯」ではないのか、ワールドを「W」にするなら「WC」とすればいいのに…等々、疑問がたくさん湧いていました。そう言われれば確かに不思議な表記です。

Q3：つぎの3つの「～てください」のうち、一つだけ性質の違うものはどれ？



①ドアをあけてください。

②しずかにしてください。

③すわってください。

正解は③です。理由を説明できますか。日本語では3つとも「～てください」と表せますが、たとえば、マレー語では①②は「Tolong～」、③は「Sila～」と、①②と③で違う表現を使う言語もあります。答えの知りたい方はぜひ日本語学のとびらを開いてみてください。（ヒントは「誰のためか？」です。）

受講生の方にいただいた、うれしい授業の感想として「他の授業では、知らなかったことを学んで知識が増えるが、この授業では母語であるはずの日本語にどんどん疑問が増えていった」というものがありました。まさに、それが日本語学のおもしろさだと思います。上の3つの問いは、いずれも私が留学生の目や耳を通して教えてもらった日本語の不思議です。私もまた日本語を教えているのではなく、教わっているのかもしれない。みなさんもぜひ、一緒にわからないことを増やししながら、日本語のおもしろさを発見してみませんか？

「みずから考えること」



客員教授 坂上 康博

往々にして、わたしたちは、みずから考え、また、これを組み合わせることによって、さまざまに苦労を重ね、長い年月を費やして、ようやく作りあげたある真理やある見解が、ふと手にしたある書物のなかに、そっくりできあがっているのを見つけて、がっかりすることがあるとしても、やはり、みずから考えて獲得した真理なり見解なりは、ただ読んで知ったものにくらべると、百倍以上も価値があります。(中略)

単に学んで知った真理がわたしたちに付着するぐあいには、ただ、義手・義足・義歯・蝋細工の鼻、あるいは、せいぜい他人の肉を材料にした造鼻などがわたしたちに付着するくらいの程度のものにすぎません。しかし、みずから考えることによって獲得した真理は、生まれながらの手足と同じく、これのみが、真に、わたしたちの躯幹に所属するのです。

..... ショーペンハウアー「みずから考えること」(1851年)、鶴見俊輔他編『生きる技術(ちくま哲学の森8)』筑摩書房、1990年、pp.247-249

この文章に出会ったのは、今から33年前、大学教員になって間もない頃でした。社会学系の学科では当時めずらしかった「スポーツ文化論」という科目や、卒論指導をメインにした3、4年生のゼミなどを担当していた私は、「授業で何をどう教えるべきか」という根本的なことで悩み始め、なかなか納得できる答えが見つからず、もがいていました。受験勉強のような知識の暗記ではなく、探究することの面白さを伝えたい、思考力や洞察力を鍛えるような授業がしたい、そんな思いを持ってはいたものの、それが本当に自分のめざすべき方向なのか、今一つ自信が持てずにいたのです。そんな時に出会ったのが、ドイツの哲学者ショーペンハウアーの「みずから考えること」でした。

まったく同じ真理や見解であっても、みずから考えることによって獲得したものは、書物などから得たものの百倍以上の価値がある、そしてそれのみが自分の身体の一部になる、というショーペンハウアーのこの力強い文章に、私は大きな勇気をもらいました。それ以来、授業のねらいや卒論について説明する際にこの文章をしばしば紹介し、自分の思いを学生に伝えるようにしてきました。

こうして30年以上にわたって私を支えつづけてくれたショーペンハウアーの文章なのですが、今回久しぶりに読み返してみたところ、上記の文章のすぐあとに「思想家と単なる学者との差別は、まさしくここにあります」という一文があることに気づきました。ショーペンハウアーの区別によると、要するに、「みずから考えることによって獲得した真理」を身につけている者のみが「思想家」であり、「単に学んで知った真理」しか獲得していない者は「単なる学者」ということなのです。

ショーペンハウアーが批判のやり玉にあげていたのは、実は学者だったのです。うかつにもそのことに気づかず(忘れてしまった?)、もっぱら学生に向かって「みずから考えること」の大切さを語ってきた私は、ブーメランのように戻ってきた突然の強烈なパンチで鼻をへし折られてしまいました。おまえは「単なる学者」か「思想家」か、と問われて、「思想家」だと答える自信は今の自分にはありません。でも、「単なる学者」のままでいたら、教え子たちに会わず顔がありません。

ショーペンハウアーの文章には、そんな私を励まし、懇切丁寧に導いてくれる羅針盤も埋め込まれていました。たとえば、「最も有害なことは、絶えざる読書により他人の思想があまりにも力強く流れ込むことです。(中略) 読書の性質がすでにこのようなものですから、あまりに多く読みすぎではいけません。さもないと、精神は代用物に慣れ、そのため、事物そのものを学びそこないます。(中略) いささかなりとも、読書のために、自分の眼を現実の世界からまったく引き離すようなことをしてはなりません。」「思想家・天才・世界の啓発者・そして人類を進歩させた者は、直接に、この世界という本を読んだ人たちです」。

ということで、残りの人生で、「思想家」に近づくための新たな挑戦を試みていきたいと思います。

宗教と「宗教の問い」

客員教授 深澤 英隆



私が専攻している宗教学（宗教史学、宗教社会学を含みます）は、神学（キリスト教、神道等）や教学（仏教等）とは異なり、信仰を前提としない学問の立場から、宗教について考えることを課題としています。宗教の歴史や特質についてあらためて冷静に検討することは、現代社会が直面している課題であると思います。



ゲオルク・ジンメル
(1858-1918)

研究の主たるフィールドとしているのは、19世紀末前後のドイツにおける宗教思想と宗教運動の展開です。ひとつの焦点は、ゲオルク・ジンメルという社会学者・哲学者の宗教論とその背景を探ることにあります。大都市ベルリンの中央部で生まれたジンメルがなによりも注目したのは、ヨーロッパ近代社会が世俗化の波に襲われ、教会キリスト教がリアリティーを失い、多くの人々の宗教的欲求が行き場を失い、宙をさまよっているような状況でした。宗教の社会的考察を創始し、社会と文化の深部に潜む宗教性のちからを明るみに出すジンメルの宗教論は、大変興味深く、現代的な意味に富んでいます。ご関心のある方は、『ジンメル宗教論集』（深澤英隆訳、岩波文庫）をご一読ください。

研究のもうひとつの焦点は、19世紀の終りごろより出現した、ドイツ民族主義宗教運動という特異な運動群です。古代末期より、ヨーロッパ世界は徐々にキリスト教化され、中世後期にはほぼキリスト教一色となりました。ところが19世紀の末近く、キリスト教会の支配力が弱まるにつれて、キリスト教を撤廃ないし「ゲルマン化」し、古代ゲルマンの自然宗教を復興させようとの運動群が出現しました。もっとも古代ゲルマン宗教の実像を物語る資料はごくわずかですので、事実上それは新たな宗教創造に近いものとなります。またこの時期のドイツのこうした運動の最大の問題は、それがドイツ＝ゲルマン民族主義や人種思想とも結びつき、ついにはナチズムの生成を準備するに至ったことにあります。自分たち本来の自然宗教を復興させたいという願いは正当なものであり、実際現代欧米社会にも、新異教主義（ネオ・ペイガニズム）と呼ばれるこうした宗教＝文化運動が数多く見られます。しかし19世紀末ドイツでは、それが勃興してきた民族主義の潮流と合わさり、非常に問題ある政治性を帯びてしまったのです。従って、この種の運動の研究は、そのことを十分に意識しながら進める必要があります。とはいえ、ヨーロッパにおけるキリスト教に対する本格的な対抗宗教運動として、これらの宗教運動には無視することのできない宗教史的意味があります。



幻想のゲルマン宗教寺院
(フィドゥス画、1915年)

近代社会は、合理的思考だけでは解決できない、しかし人間にとって切実な問いを、外に押しやって成立してきました。生と死の意味、世界の実相、真の意味での救いや癒し、無条件の愛や赦し、心や霊性の真のすがたなどが、そうした問いとして挙げられます。ところで、これらの問いを近代社会にあっても引き受けてきたのが宗教です。そうした問いを「宗教の問い」と呼ぶならば、これら宗教の問いを封じ込めるだけでは、社会と文化はますます病むばかりです。もちろん宗教の問いへの最良の答えがこれからも宗教によって得られる、とは限りません。とはいえ、宗教の過去と現在のすがたを探究することは、現在と未来のより良い生と社会を考えるうえで、重要な示唆を与えてくれます。宗教学を学ぶことの意味はそこにある、というのが私の実感です。

歯医者さんが患者さんの自宅や施設に診療に行く訪問診療



客員教授 深山 治久

私は、3年前まで他大学の歯学部で教育、研究、臨床に携わってきました。それらの内容はかなり専門的になり、これを読んでくださる本学の学生さんはあまり興味を持ってくださらないかと考えました。そこで、この3年間、新たな領域での取り組みを紹介して、現代の歯科医療の状況をお知らせしようと思い立ちました。

食べることは生きるために欠かすことができず、話すことはコミュニケーションに必要で、歯や口のトラブルは治さなければならず、また、そうならないように対策をとっておくことが求められます。もちろん、歯並びや白くて美しい歯はその人の印象に大きく影響します。

もし、歯が痛い、歯肉が腫れた、入れ歯が合わない、歯並びが気になる、歯を白くしたい、インプラントはどうかなど口やその周りに不都合が起きた場合、つまり歯科治療を受けるには歯科医院に向かうのが普通です。

ところが、歳をとって外出するのが難しくなった、脳卒中の後遺障害で体が不自由になった、心臓が悪かったり肺の具合が優れず歩くのも大変などが理由で歯医者に行けない人がいます。また、認知症や心の病気などで、付き添いがあっても通院出来ない方がいます。特に日本は65歳以上が4人に1人を越えている高齢社会なので、このような方が増えています。そこで近年、患者さんのもとに伺って診療するという歯科の訪問診療に関係者が取り組むようになってきました。患者さんあるいは付き添いの方から依頼があると、約束の日時を決めて、歯科医師、歯科衛生士、歯科助手などが患者さんのご自宅や老人ホームをはじめとする施設に伺います。その際には口の中を診察する鏡やピンセットばかりでなく、口の中を詳しく調べるランプ、歯を削ったり入れ歯を直したりするドリル（切削機器）、虫歯に詰める材料、歯を抜く道具、唾液を取り除く吸引装置、歯や骨の中を検査するレントゲン装置など、つまり歯科診療に必要なほとんどの機器材を持ち込んで診療を始めるのです。普通に通う歯科医院とほとんど同じ診療が出来ます。もちろん、我が国では、診療費は医療保険や介護保険を使えるような制度も整っています。

訪問診療でも虫歯や歯周病のチェック、入れ歯の調子などの定期的な口腔内検診を受けられるので、美味しい食事を摂ることができます。もちろん、歯ブラシを使うブラッシングをはじめとして口腔衛生管理（口腔ケア）は自分でもできますが、歯科医師や歯科衛生士による専門的な口腔ケアをお勧めしています。短時間で効率の良い処置を受けられるからです。そのためには、内科などの医科と同様、かかりつけ歯科医を持ち、長年、患者さんの様子をよく把握している先生に訪問診療まで世話してもらうことが理想です。



図1 訪問診療車

歯科医師、歯科衛生士、歯科助手、運転手などの関係者が乗り、歯科診療に必要な機械・器具を積み込んで診療に行きます。狭い道にも入れるように、軽自動車を使うことが多いようです。



図2 介護老人保健施設での口腔ケア

患者さんの歯石を取ったり、歯を磨いたり、歯肉を整えたり、舌の汚れを取ったりします。歯科衛生士が活躍します。



図3 居宅での口腔ケア

ご自宅のベッド上で歯科衛生士が歯を磨いています。この患者さんのようにご自分で歯を磨けない方に専門家が口のケアをしています。



図4 居宅での義歯調整

義歯を使って食事を摂るように調整をします。新しい義歯は何度か調整が必要で、その後も年月が経つと歯肉の状態が変化したり、噛み合わせが変わったりするので、必要に応じて修理や調整が必要になります。

※ 図2, 3, 4 は下記の書籍から転載しました。

下山和弘, 深山治久: 訪問歯科診療の実践 寄り添う訪問歯科 2022 口腔保健協会, 東京

「啓蒙」という言葉をめぐって



客員教授 森村 敏己

2023 年秋より放送大学・多摩学習センターで客員教授を務めることになりました森村敏己と申します。大学では長年「社会思想史」という科目を教えてきました。社会思想史というと、哲学とどう違うのか、社会思想史の「社会」はどういう意味なのかといった質問をよく受けます。哲学との違いは、哲学よりもっと具体的な社会問題について扱うとお答えすることで、ある程度納得してもらえますが、「社会」の意味は厄介です。政治思想史にせよ、教育思想史にせよ、もちろん経済思想史にしても「社会」についての思想の歴史に違いありません。実際、社会思想史の研究者には政治思想史に近い人もいれば、経済思想史から出発している人もいます。社会思想史の「社会」はなかなか説明が難しいのです。

ただ、正直なところを言えば、私自身は言葉の意味を最初にはっきりさせるより、具体的に何を研究しているかをお伝えすることで、もっといえば色々な社会思想史研究の具体例をお示しすることで、輪郭を掴んでいただければいいと思っています。そこで、自分の専門について少しご説明しようと思います。

私の専門はフランス啓蒙と呼ばれる思想運動です。しかし、この「啓蒙」がまた面倒な言葉なのです。「蒙を啓く」というのは明らかに物を知っている人間が知らない人間に教えてやる、という「上から目線」の言葉です。ですが「啓蒙」という日本語はあくまで外国語を翻訳する際に選ばれた単語です。もともとの外国語では「光」とか「明るくなる」といった程度の意味だったと思ってください。そこにはさほど「上から目線」の偉そうな感じはありません。

では「光が差ししてくる」「明るくなっていく」という言葉にはどんな思いが込められていたのでしょうか。私たちは曲がりなりにも（あるいは建前上）「人権」とか「自由」とか「法の前での平等」とかいった言葉が違和感なく通用する時代に生きています。もちろん、本当に人権が大切にされているのか、十分に自由なのか、不公平はないのかと言えばそんなことはありません。ただ、表立ってはそれらをあからさまに踏みにじることはしづらくなっています。しかし、啓蒙の時代つまり 18 世紀はそうではありませんでした。ただ、今のままではいけないという思いがはっきりしてくる時代なのです。そして、社会を良い方向に変えることは簡単なことではないけれども不可能ではない、やり方次第では実現できると考える人たちの声が大きくなっていった時代だとも言えます。「光が差し」「明るくなる」とはそういう意味です。具体的には、もっと開かれた政治だったり、より公正な税制だったり、現在で言う人権の尊重だったりが要求されていきます。私自身は身分制度や不平等をめぐる議論にとくに関心を持っています。

啓蒙運動が盛んだった国には、自分たちこそが「文明の中心」「最先端の国」だと思い込み、とくにヨーロッパ以外の地域を植民地化して、「文明をもたらす」「経済交流によって豊かにする」といった口実で暴力的に支配するという「負の側面」もありました。ですが、非ヨーロッパへの暴力を激しく告発する人々を生み出したのも啓蒙です。啓蒙には色々な考え、声がありました。そうした考えや声のうち、後の時代がどれを引き継いだかは、引き継いだ時代の責任です。啓蒙には今も学ぶべき点、逆に反省すべき点の両方があります。そして、今よりも「光が差した社会」を実現しようとする意欲とその可能性への信念が、200 年以上前の時代から一番に学ぶべき点だと思います。

啓蒙時代の人たちは様々な点で現在の私たちよりも厳しい現実を生きていました。それでも「光」をスローガンに掲げたことに、彼らの切実さとたくましさを感じて、これまで研究を続けてきたような気がします。

令和5(2023)年度の東京多摩学習センター



空調改修と館内 LED 照明への変更の工事期間中、センターは閉所となり、学生の皆様にはご不便とご迷惑をおかけしましたが、無事完了し、4月から心機一転のスタートとなりました。また、図書・視聴学習室もリニューアルされました。自主学習の場としてご利用いただければ幸いです。

単位認定試験の Web 受験も、少しずつ広がりを見せ、浸透してきています。

今年度、センターで開催された式典、面接授業、公開講演会などの模様をご紹介します。

◆東京多摩学習センターでは、
[行事の開催について]・[申請方法]など、
「東京多摩学習センターウェブサイト」に
掲載いたします。ご確認ください。



式典等



◆令和5(2023)年度 1 学期
2023 年 4 月 9 日
[入学者の集い]
Web 会議アプリ Zoom を利用して開催



◆令和5(2023)年度 1 学期
2023 年 9 月 24 日
[卒業証書・学位記授与式]
多摩学習センターにて開催



- 勉強する楽しさ、知ることの楽しさを学ばせてもらいました。私は四大卒の資格が欲しくて入学をしたのですが、中・高校時代とは違う深い内容に気付き、ただ単位を取得するのではなく、本当に“楽しい”という気持ちになりました。あまり興味がなく難しいと感じていた授業が実は一番楽しくなったことは驚きでした。
- 自分の生き方の幅を広げる手助けになったこと、感謝しております。現在、ボランティアが生きがいの一つになっていますが、そのきっかけくれたのも放送大学でした。無理せず、気負わず、コツコツ、で全コース修了しました。長い間、大変ありがとうございました。



◆令和5(2023)年度 2 学期
2023 年 10 月 1 日
[入学者の集い]
多摩学習センターにて開催



- 学長の学習に向けたメッセージが印象的だった。入学したという実感が沸いた。
- 大変分かり易い説明ありがとうございました。
- 今日参加することで、[学習センターの利用]や[教員の方の事]を知れて良かったです。



学生からの声



◆[単位認定試験操作体験会]
多摩学習センター実習室にて開催



面接授業風景

◆授業登録の際、「シラバス」をよくご確認ください！！

- ・Wi-Fi 申請手続きは**事前**に済ませておきましょう。
- ・保険加入の授業があります。(授業前日までに加入登録が必要)
- ・キャンパス内には飲食店および食べ物を購入するお店がありません。



◆令和5(2023)年度 第1学期：60科目

授業では大学での国際戦略や留学生獲得の先進的実践例を多面的に検証・考察します。

R5年6月10,17日
7月1,8日

[大学の国際化と留学生を考える]

太田 浩 先生
(一橋大学教授)



◆令和5(2023)年度 第2学期：60科目

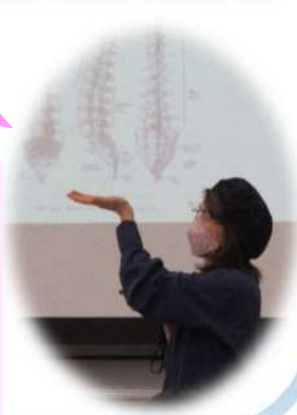


運動に適した服装、
五本指ソックス、
シート(ヨガマット推奨)、
身体測定メジャー等
ご用意ください。
(シラバス参照)

R6年1月11,12日

[伝統太極拳における身体術の基本]

石水 極子 先生
(東京大学元非常勤講師
/ 楊露禅直系正弟子)



◆令和5(2023)年 7月29日

放送大学東京多摩 SC 4 階講義室にて開催

演題：「知っているようで
知らない打楽器あれこれ」

講師：目黒一則 先生

(全日本打楽器連盟事務局長/パ・カッショ・ワールド代表)



- 楽器を実際に演奏していただきながら、お話が聞けて、また、みんなでリズムワークショップもあり楽しかったです。
- 楽器にふれて、お話を伺い、参加型で大変楽しい時間でした。
- 明るく広々とした教室で、とても楽しく参加できました。この場所で勉強してみたいと思います。
- 続編を期待しております。



公開講演会

◆令和5(2023)年 12月2日

一橋大学国際共同研究センター1 階多目的ホール
(放送大学東京多摩学習センターと同じ建物です)

演題：「鯨とマーガリン」

講師：赤嶺 淳 先生

(一橋大学大学院社会学研究科 教授)



- 成熟社会とは何かということを考えさせられました。社会学とは興味深い学問であることがわかりました。
- こんなに深い内容の講演を無料で参加できたことに感謝しています。
- 自分で考え判断する、というお話が印象的でした。

東京多摩学習センター所属の先生

五十音順、敬称略

教員氏名	専門 (放送大学コース)	現職
おざき まさたか 尾崎 正峰	スポーツ社会学 (人間と文化)	多摩 SC 所長 一橋大学名誉教授
おおた ようこ 太田 陽子	日本語・日本語教育学 (人間と文化)	多摩 SC 客員教授 一橋大学大学院 言語社会研究科教授
さかうえ やすひろ 坂上 康博	スポーツ史・ スポーツ社会学 (人間と文化)	多摩 SC 客員教授 一橋大学 社会学研究科特任教授
ひめの あつこ 姫野 敦子	日本文学 中世文学・歌謡文学 (人間と文化)	多摩 SC 客員准教授 清泉女子大学 文学部准教授
ふかさわ ひでたか 深澤 英隆	宗教学・ 宗教社会学・宗教哲学 (人間と文化)	多摩 SC 客員教授 一橋大学名誉教授
ふかやま はるひさ 深山 治久	歯科麻酔学 麻酔・生体管理学 (生活と福祉)	多摩 SC 客員教授 東京医科歯科大学 名誉教授
もりむら としみ 森村 敏己	社会思想史 (人間と文化)	多摩 SC 客員教授 一橋大学 社会学研究科教授

R5.9.1~R6.3.31

学びの窓口 (学習相談)

東京多摩学習センターでは、
皆様の勉学やキャンパスライフについて
所長と客員教員が皆様と話し合い、
共に考える場を設けています。
勉強の進め方、進学相談等、
ぜひお気軽にご相談ください。

◆予約制となっております◆

申込方法：SC 事務室の窓口・
電話・メール

その際あらかじめ簡単に
相談内容について
お伺いしております。

令和 5(2023)年度は 以下のようなゼミが ありました

2023-1 学期

おざき まさたか 尾崎 正峰	「深掘り・オリンピック」	全 4 回
おおた ようこ 太田 陽子	「ことばをみつめる- 日本語学へのアプローチ」	全 4 回
ふかやま はるひさ 深山 治久	「医療での麻酔の立ち位置を知る、 考える」	全 3 回

2023-2 学期

おざき まさたか 尾崎 正峰	「深掘り・オリンピック」	全 3 回
おおた ようこ 太田 陽子	「ことばをみつめる- 日本語学へのアプローチ」	全 4 回
さかうえ やすひろ 坂上 康博	「自分で追及してみたいことを、 語り合う(研究入門ゼミ)」	全 4 回
ふかさわ ひでたか 深澤 英隆	「宗教の生成・展開・ゆくえ- P・バーガー『聖なる天蓋』を読む」	全 4 回
ふかやま はるひさ 深山 治久	「医療での麻酔の立ち位置を知る、 考える」	全 4 回
もりむら としみ 森村 敏己	「18 世紀フランスに見る噂・世論」	全 4 回

多摩ゼミ (少人数制)

東京多摩 SC 教員指導のもと
自主的に[研究][発表][討論]を行います。

◆単位の修得はありませんが、
知識を深められる貴重な機会です！！

- 講師：多摩 SC 所長, 多摩 SC 客員教員
- 時期：学期ごとに 1 回 (全 3 回 or 4 回)

◆詳細の掲載時期◆

4月, 10 月頃
「東京多摩学習センター
ウェブサイト」に UP

放送大学東京多摩同窓会の紹介

放送大学東京多摩同窓会
会長 西久保日出夫

放送大学東京多摩同窓会は2006年に設立されました。現在では会員225名となり、放送大学の同窓会の中では中規模の同窓会となっております。主な活動は会報の発行、行楽会、講演会、懇親会の他に、コロナ禍の影響もあり、現在は中断していますが修学相談等も行っております。同窓会の主な目的は会員相互の交流の場の提供です。通信教育のため、どうしても同じコース等で学んでも顔も知らなかったが、実はお互いに同じ町の近くに住んでいたということもあります。多くの卒業・修了生に会員になって頂きたいと思います。さらに、お手伝いしていただける時間が少しでもありましたら、役員、サポーター等への参加もお待ちしております。

同窓会ホームページをご覧ください ⇒ <https://tama.ouj-dosokai.net/>



<2023 年春の講演会(東京多摩 SC)>



<2023 年秋の行楽会(小石川植物園)>

東京多摩学習センターのサークル

- ◆東京多摩学習センターには以下
大学公認のサークルが8 団体あります。
- ◆詳しくは東京多摩学習センター
ウェブサイトをご覧ください。

- 江戸文化を楽しむ会
- 漢方クラブ
- 古文書学習会
- 茶道クラブ『無門会』
- 多摩数学クラブ
- 天文同好会『宇宙校』
- パソコンクラブ多摩
- ぶら多摩クラブ



茶道クラブ『無門会』に
多摩 SC 客員教員の
姫野敦子先生が
出席されているとの情報が!
ちょっと、のぞいて見ました



◆サークル活動に興味がある方◆
各自サークルにお問合せ下さい



2024年度第1学期科目登録について



2024年3月末日で学籍が切れる方

大学本部から送付される「継続入学用出願票」、またはシステムWAKABAから「出願・科目登録」の手続きを行ってください。

出願期間

第1回募集: 2023年11月26日(日)
～ 2024年 2月29日(木)

第2回募集: 2024年 3月 1日(金)
～ 2024年 3月12日(火)

※面接授業の科目登録も併せて出願される場合は、右記の科目登録申請期間中に、システムWAKABA⇒教務情報⇒継続入学申請から同時に申請してください。



2024年4月以降も学籍が続く方

提出期間



インターネット申請(システムWAKABA)
2024年 2月13日(火) 9:00
～ 2月29日(木) 24:00

郵送申請・・・大学本部から送付される「科目登録申請票」で、次学期の授業科目を申請してください。

2024年 2月13日(火)
～ 2月28日(水)【私書箱必着】

※詳細は、科目登録申請要項でご確認ください。
※2023年度第2学期に登録した科目が、再試験になった場合は、科目登録は必要ありません。



お知らせ



2024年度第1学期より、学習センターで開講する面接授業では、大学設置のパソコンが撤去され、BYODが開始されます。

科目により「パソコンの持ち込みが必須」となっているものがあります。

履修登録の前に、シラバスの記載事項を必ず確認してください。

パソコンの持ち込みが必須である科目のうち、事前準備が必要な場合があります。

例) *大学のWi-fi申請手続きを行う

*ソフトをダウンロードする

自席でパソコン等の充電が可能です！



申請は、**所属学習センターのみ**で受け付けます。

申請前にシステムWAKABA内のセキュリティー研修の受講とテストの合格(修了証)が必要です。

東京多摩学習センターのからのお知らせは、ウェブサイトに掲載しています。
随時ご確認ください。

<https://www.sc.ouj.ac.jp/center/tama/>

東京多摩学習センター【事務室窓口】9:30～17:30

開所時間【図書・視聴学習室】10:30～17:30

月曜日
祝日休み



東京多摩SC 事務室からのお願い



学生の皆様への連絡方法を大幅に変更します！！
下記の方法とさせていただきます。
各自、定期的にご確認の程お願いいたします。



◇ 東京多摩学習センターウェブサイトへ掲載

◇ キャンパスメールへの送信

【 学生番号(ハイフン除く半角10桁) @campus.ouj.ac.jp 】



お知らせ



「在学生」は、放送大学が提供する[無線LAN(WiFi)]をご利用いただけます。
※ご利用いただくにあたり事前に申請が必要となります。

申請は、**所属学習センターのみ**受付けます。
申請前にシステムWAKABA内の
●「セキュリティー研修の受講」と
●テストの合格「修了証」が必要です。

2024年度第1学期より、学習センターで開講する面接授業では、
BYODが開始されました。
科目によっては「パソコン持ち込みが必須」となっているものがあります。
シラバスの記載事項を必ずご確認ください。



東京多摩学習センターのからのお知らせは、ウェブサイトに掲載しています。
随時ご確認ください。

<https://www.sc.ouj.ac.jp/center/tama/>

開 所 時 間【事 務 室 窓 口】9:30～17:30
【図書・視聴学習室】10:30～17:30



月曜日
祝日休み



[2024.9月 追加分]